

コバルトクロム焼付合金の臨床応用における要点

ヘレウスクルツァージャパン株式会社
小野寺保夫

近年、世界的な金の高騰によって歯科用貴金属焼付合金においても大きな影響が出ており、コバルトクロム焼付合金に対する関心が益々高くなってきております。しかしながら、適合性の問題、厚い酸化膜での陶材の剥離や高い比熱によつての陶材クラックなどの問題もあり、日本においては殆ど普及していないのが実情です。

ドイツでは約 10 年前から、コバルトクロム焼付合金に関しては、生体安全性がクリアされた鑄造用、CAD/CAM のミリングやレーザープリンターなどの異なる製造方法のフレーム製作が可能となり、臨床に導入されております。そこで今回は、CAD/CAM の最新技術も含めドイツでの実情と日本での臨床応用について述べさせていただきたいと考えております。

- 略歴** 小野寺 保夫 (オノデラ ヤスオ) 54 歳
- 1978 愛歯技工専門学校卒業
 - 1988 第 2 回国際歯科技工学術大会
テクニカルコンテスト金賞受賞・厚生大臣賞受賞
 - 1992 日本歯科技工士会生涯研修認定講師
 - 2001 愛歯技工専門学校 技工実習科非常勤講師
 - 2002 東京医科歯科大学附歯科技工士学校 技工実習科非常勤講師
 - 2005 東北大学歯学部附歯科技工士学校 歯科技工学科非常勤講師
 - 2010 ヘレウスクルツァージャパン株式会社
東京研修センター所長

著書

- 1998 『ミリングの基礎と実践』 クインテッセンス出版
- 2009 『インプラント技工におけるミリングテクニックの有効性』 5 月-12 月号連載
クインテッセンス出版
- 2011 『コンポジットレジジン充填テクニック』 西川義昌・小野寺保夫
クインテッセンス出版